



<改めて、一番申し上げたいこと>
上越市の危機と3つの可能性

●最大の危機=人口減少の加速化～特に若年女性の流出
この5年、いや2～3年で持続可能な未来形を始動！

●3つの可能性

理想的な定住循環圏のモデルへ

6万トン

1. 地方都市随一の「自給循環力」(食料、エネルギー)
→循環型社会のトップランナー、100万人分の米生産力
2. 地元から創り直す「自治力」～地域自治区の共進化
→地域経営会社+小さな拠点+分野横断職員チーム
+デジタルシミュレーター
循環自治区のモデルへ
3. 首都圏への「レスキュー」力～いざという時に上越市
→疎開保険、食料保険、BCP都市、「上越巡礼」

上越市の魅力つかみ、持続可能なまちづくりへ

市議会主催の議員勉強会が5日にありました。今回の講師は上越市創造行政研究所所長として上越市に来ていただいている藤山浩さんです。藤山さんは「上越市の持続可能なまちづくりについて」というテーマで話してくださいましたが、人口減少が加速化する中で上越市をどうしたらいいのか、ズバリ語ってくださいました。

藤山さんが講演の最初の部分で上越市の人口減少のゆゆしき状況と今後の対策の方向性として示されたのは、「上越市の危機と3つの可能性」です。人口減少が加速化し、若年女性の流失が大きいとして、ここ2、3年で「持続可能な未来形」を始動させなければならない、とのべ、①地方都市随一の「自給循環力」、

②地元から創り直す「自治力」、③首都圏への「レスキュー力」の3つの可能性を今後の持続可能なまちづくりをしていくうえで追求していくことの大切さを訴えました。③については、これまで考えたことがなかったのですが、①②はこれまで上越市の魅力として私自身も訴えてきたことですので、全く同感です。

すごいなと思ったのは、人口の増減、出生率、高齢化率などを地域ごとに丁寧に分析して実態をつかむとともに、出生率・流失率・定住増加の3つを組み合わせ、人口安定化へのシナリオを提起していくその手法です。実態がよく見えてくるし、どういうことに手を打ったらいいかもおぼろげながら、見えてきました。目指すは地域循環型社会の実現です。地域を軸に、食料だけでなく、エネルギーや水など生きていく上で必要なものを最大限自給し、循環させる。そして、それを推進するためには地域自治が重要です。「上越の自治区は未来形だ。未来でこそ生きる」という気持ちで頑張る。こ

のままだとあと数年で終わってしまうと思われる地域もこの考えを活かせば復活できるかもしれない、そう思いました。

講演後の質疑応答で藤山さんは、上越市の総合計画について、「計画はまだ全部は読んでいないが、まだまだ未来形に踏み込んでいない。自治区は自治区ごとに違いがある。各自治区がどうやるか踏み込んでいくことが重要だ」とのべておられました。地域自治区ごとの地域計画づくりは待たなしですね。



単独行動し、エサを探し、食べているコウノトリの幼鳥(番号はJ0794)の6日、柿崎区上直海にて撮影。

右のQRコードをスマホのカメラで読み込むと、『コウノトリさん、ありがとね』の歌を動画で見ることができま



来週はお盆のため、活動レポートの作成は休みます。よろしくお願

【ジュズサンゴ】ヤマゴボウ科の植物。別名ハトベリー。草丈は30センチから2メートル前後。ある喫茶店に置かれていた花ですが、朝市で購入したといいます。花期は6月から10月。淡いピンクか白の花を咲かせます。花言葉は「ひたむきな姿勢」「移り気」。写真は7月30日に直江津地区にて撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2167 2024.8.11

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL https://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八一四回

折り紙

七月の下旬、次男の連れ合いの実家で、孫のリョウ君と会いました。前回会ったのは、母が病院から退院し、家族や親族と最後の別れをしたころですから、一年十ヶ月ぶりということになります。

今年、コウノトリのヒナ誕生から巣立ちまでわずか二か月ちよつとという状況を見てきました。孫の場合もコウノトリほどではないものの、成長のスピードの速さに驚きました。二年近くも会わないでいると、成長ぶりには目を見張るものがあります。

孫のリョウ君は現在、名古屋市に住み、小学校三年生です。会った途端、「大きくなったもんだ」と感心しました。何よりも背丈です。前回会った時よりもぐんと伸びて、一センチは軽く超えています。

いったいどれくらい大きくなったのだろうか。そう思ったのは、私だけではありませんでした。妻がすぐにリョウ君のそばに行き、背比べを始めました。リョウ君と向き合い、ニコニコしながら、右手を自分の頭から滑らせてリョウ君の頭まで持っていく、その差を確認していました。

居間に入ると、テーブルの一角には紙コップが十個、ピラミッド型に積み上げられていました。何だろうと思って見入っていると、その近くに、割り箸を二組使った縛りがあるものがありました。次男の連れ合いのお母さんであるHさんだったと思いますが、その時点で、遊び道具であることを教えてくれました。何のことはない、割り箸は輪ゴムを飛ばす道具で、紙コップは射的の的だったのです。

そうとわかると、じっとしていられないのが私の性分です。二つの輪ゴムを割りばしに取り付け、ビューンとやりました。すると、紙コップのピラミッドの一番高いところパシッとあたって紙コップが倒れ、「おお」という声が上がりました。われながら立派なものです。(UJで拍手)

あとでわかったことですが、リョウ君は遊び道具を自分で作ることに興味を持ち始めていました。前回会った時は、何を使っても遊んでいたかよく覚えていませんが、市販されている乗り物やブロックなどだったように思います。この二年近くの間に遊びの道具は買うだけでなく、自分でも作るようになっていました。遊びの点でも大きく成長していったのです。

リョウ君が最近、はまっているのは折り紙です。折り紙といえば、紙飛行機とかツルが人気ですが、飛行機ひとつとっても丁寧に作ってあって、遠くまできれいに飛ぶように作ってありました。

びっくりしたのは花です。テーブルの上でリョウ君が出してきた折り紙の花は、見て楽しむというレベルを超えていて、上から中心部を押すと花が開くようになっていました。動きがあるのです。

それだけではありません。駒回しも自作でした。白と紫色、オレンジ色、青色の四種の紙を使って作られた駒は、平らなところで上の青色の部分の指で回すと、ぐるぐる回るようにできていました。私が「どん」と言うと、リョウ君が回す駒は勢いよく回転し続けました。あまりにもうまく回転するので、「うまい、うまい、うまい」とほめました。

このほか、折り紙で作ったヘビは、ニコニコと動くヘビの雰囲気を出せるようにしてありました。ヘビの胴体はいくつかの小さな箱をつなげていました。なるほどよく考えたものです。

久しぶりに孫に会うと、成長した姿にびっくりすることが一つや二つはあるのですが、今回の折り紙の上達ぶりには「大したものだ」と思いました。リョウ君は数日後、私の作品展に来て、コウノトリの写真を見せました。次回会う時にはコウノトリの折り紙ができてくるかも……。

吉田信夫さんの水彩画展へ



ひよっとするとデッサンカを身につけるヒントがあるかも知れない。そんな思いを抱きながら、アオーレ長岡1階で開催されている吉田信夫さんの水彩画展(左上)を電車に乗って観てきました。

私が風景を描くときになかなかうまくいかないことの1つは緑色の使い方です。この緑は農村部を描くときに欠かせない色ですが、緑を使った吉田さんの表現力はずば抜けていると感じました。

作品は全部で約40点。長岡の景色だけでなく、柏崎の番神や米山なども描かれていて、その点でも親しみを感じました。

吉田さんは日本共産党の元東京区議員。私の友人である柏崎出身の毛利正道弁護士のことや上越市大島区大平出身の高橋知一さん(故人・東京都議)のことなども話をすることができました。



【朝市で頑張る人たち】今回は野菜を売っている池田豊平さんです。ミハ市では一番海側の場所に店を開いています。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月31日(水)	8月7日(水)
上越消防署	0.050	0.050
上越南消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.063	0.060
東頸消防署	0.043	0.047
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.057	0.057

春よ来い

第八一四回

折り紙

七月の下旬、次男の連れ合いの実家で、孫のリョウ君と会いました。前回会ったのは、母が病院から退院し、家族や親族と最後の別れをしたころですから、一年十ヶ月ぶりということになります。

今年、コウノトリのヒナ誕生から巣立ちまでわずか二か月ちよつとという状況を見てきました。孫の場合もコウノトリほどではないものの、成長のスピードの速さに驚きました。二年近くも会わないでいると、成長ぶりには目を見張るものがあります。

孫のリョウ君は現在、名古屋市に住み、小学校三年生です。会った途端、「大きくなったもんだ」と感心しました。何よりも背丈です。前回会った時よりもぐんと伸びて、一センチは軽く超えています。

いったいどれくらい大きくなったのだろうか。そう思ったのは、私だけではありませんでした。妻がすぐにリョウ君のそばに行き、背比べを始めました。リョウ君と向き合い、ニコニコしながら、右手を自分の頭から滑らせてリョウ君の頭まで持っていく、その差を確認していました。

居間に入ると、テーブルの一角には紙コップが十個、ピラミッド型に積み上げられていました。何だろうと思って見入っていると、その近くに、割り箸を二組使って縛ってあるものがありました。次男の連れ合いのお母さんであるHさんだったと思いますが、その時点で、遊び道具であることを教えてくれました。何のことはない、割り箸は輪ゴムを飛ばす道具で、紙コップは射的の的だったのです。

そうとわかると、じっとしていられないのが私の性分です。二つの輪ゴムを割りばしに取り付け、ビューンとやりました。すると、紙コップのピラミッドの一番高いところにパシッとあたって紙コップが倒れ、「おお」と言う声が上がりました。われながら立派なものです。(UJで拍手)

あとでわかったことですが、リョウ君は遊び道具を自分で作ることに興味を持ち始めていました。前回会った時は、何を使っても遊んでいたかよく覚えていませんが、市販されている乗り物やブロックなどだったように思います。この二年近くの間に遊びの道具は買うだけでなく、自分でも作るようになっていました。遊びの点でも大きく成長していったのです。

リョウ君が最近、はまっているのは折り紙です。折り紙といえば、紙飛行機とかツルが人気ですが、飛行機ひとつとっても丁寧に作ってあって、遠くまできれいに飛ぶように作ってありました。

びっくりしたのは花です。テーブルの上でリョウ君が出してきた折り紙の花は、見て楽しむというレベルを超えていて、上から中心部を押すと花が開くようになっていました。動きがあるのです。

それだけではありません。駒回しも自作でした。白と紫色、オレンジ色、青色の四種の紙を使って作られた駒は、平らなところで上の青色の部分の指で回すと、ぐるぐる回るようにできていました。私が「どん」と言うと、リョウ君が回す駒は勢いよく回転し続けました。あまりにもうまく回転するので、「うまい、うまい、うまい」とほめました。

このほか、折り紙で作ったへビは、ニコニコと動くへビの雰囲気を出せるようにしてありました。へビの胴体はいくつもの小さな箱をつなげていました。なるほどよく考えたものです。

久しぶりに孫に会うと、成長した姿にびっくりすることが一つや二つはあるのですが、今回の折り紙の上達ぶりには「大したものだ」と思いました。リョウ君は数日後、私の作品展に来て、コウノトリの写真を見せました。次回会う時にはコウノトリの折り紙ができてくるかも……。

越後よしかわやっただれ祭り、賑わう

3日は26回目の越後よしかわやっただれ祭りでした。午後の一番から終わりの時間までずっと参加させていただきました。

午後3時から、久しぶりに吉川高等特別支援学校の生徒に皆さんによるダンスを楽しみ、吉川中学校吹奏楽団の演奏も聴きました。ただ、この時間帯はまだ参加者が少なく、かわいそうでした。

日が沈む頃になってからお客さんは多くなり、日ごろの商店街とは別の世界が出現しました。やはり、神輿の運行と太鼓の演奏は最高に盛り上がりですね。

私は開式の時に挨拶し、コウノトリのことについても触れ、「幸せいっぱい、いいまちづくりを」と訴えさせていただきました。



【朝市で頑張る人たち】今回は野菜を売っている池田豊平さんです。三八市では一番海側の場所に店を開いています。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月31日(水)	8月7日(水)
上越消防署	0.050	0.050
上越南消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.063	0.060
東頸消防署	0.043	0.047
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.057	0.057